

全久院報

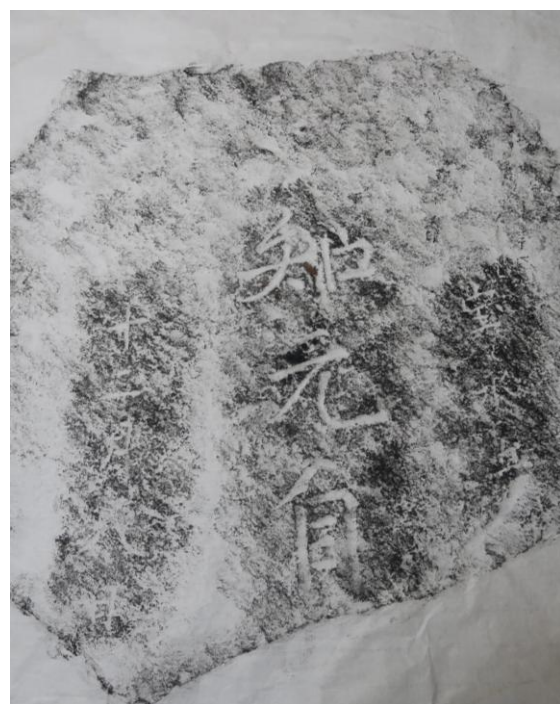
松本市深志 3-7-50 電話 0263-36-3211

あけましておめでとうございます

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。本年はいよいよ改修工事の完

成の時となります。「皆様のご協力を戴きここまで来た！」と実感する日が続いています。この工事に際して全久院の宝がたくさん発見されました。ここ数年の全久院報で報告いたしましたとおり、今までわからなかった全久院の歴史を解き明かす多くの資料が宝ということになります。

右の写真は去年の11月末に見つかったものです。大工さんから「石に字が彫ってありますがどうしましょう」と声をかけられました。土埃に塗れていたのをよく発見してくださったと感謝に耐えません。観音様の祠のあった場所の床板を剥ぎ、補強して床板を張る作業をしていた時発見したそうです。周りは塚を支える塚石があったのですが、塚の位置から外れたところにポツンと置いてありました。「知元自」「宝永5年（1709年）」「12月8日」と刻んであります。この年は江戸時代旧瑞松寺がこの地に建てられた年代頃と記憶しています。とすると、現在の全久院の基礎は当時建てられた旧瑞松寺の基礎の上に建てられていると推測される大きな根拠となります。また一つ全久院の歴史に関わる重大な発見になるかと思えます。ちなみに「知元自」とは、「外から教えられるのではなく、自分の中に本来備わっている智慧に気付く」、という意味で、曹洞宗の寺院の建物の基礎石に刻まれることがあり、建物の精神的な土台として「本来の自己を知る」という意味がこめられ、地鎮祭などの儀式的折、据えられたと考えられます。後藤先生と相談しながらこの件も後日報告いたします。



今回の「令和の大改修」は本堂の改修工事完成を以って一区切りとさせていただきます。次は俊浩副住職の晋山式を目指して、また檀信徒の皆様のご協力を戴きながら歩みを進めてまいります。重ねて本年も宜しくお願いいたします。

令和の大改修 進捗状況

寄付の状況

令和4年末より檀信徒の皆様には「全久院令和の大改修」の趣意書を配り始めました。趣意書などにもお書きしましたが、コロナ感染症、ウクライナ問題、世界経済の

悪化、円安など経済状態が悪い中、寄進をお願いしなくてはならないことは、わたくし共にとりましても苦渋の決断であり、檀信徒の皆様にとりましても多大なご負担と拝察いたしますが、何とぞご理解賜り、ご協力をお願い申し上げます。

令和7年12月現在で、約440軒、約1億7千万円の寄付の入金

金を頂戴しました。松本市や県内外に約800軒の檀信徒の皆様がありますが、約68%の檀信徒の皆様より、目標金額の約65%の入金となります。これからも進捗状況をお知らせしながら、寄付のお願いを進めてまいりますので何卒ご協力をお願いいたします。。



申し込み方法 第一次の勧誘では、ヤマト宅急便にて「寄進趣意書」「全久院の歴史」「申込用紙」「郵便払込取扱票」をお送りしました。まだ寄付のお申し出をいただいていない檀信徒のみな様は、もう一度内容をお読みいただき、寄付金額・納入回数など決めていただき、「寄付申込書」にご記入の上、ファックスか郵便にて全久院までお送りください。ファックス番号や全久院の住所は申込用紙の下段に記載してあります。申込用紙を元帳簿として会計整理をいたしますので、お手数をおかけしますが宜しくお願いいたします。文書が見当たらない方は再送いたしますので、その旨お申し出ください。

工事進捗状況 上の写真は本尊様前の丸柱下の基礎石です。先にも記したとおり、1700年頃より瑞松寺を、さらに全久院を支え続けたと思われる石です。この長い年月経ても、4mに対して1cmの狂いが生じただけのことです。この石の下1mのところまで調べたそうですが、石と砂利と砂とにがりを何層にもして地盤を作っているそうです。松本城の地盤と同じ構造とのこと。そこに**工事用ビニール敷き、鉄筋を組み、生コンを流し込み、基礎石がずれないように固めました。**11月6日と11月20日の2回生コン打ち込み作業を行いました。



右上の写真は建物を支える大柱の床下に**ダンパー**を取り付けているものです。数十か所に取り付け、地震が起きても基礎石の上で柱がずれながら衝撃を吸収して建物が倒壊しないようにします。**現代の免震構造が伝統的な日本建築に使われていることに驚きを感じます。**

次ページの写真は昨年の12月18日の本堂工事現場です。床板と断熱ボードの取り付け工事をしています。完成したら、今までの寒い全久院が変わります。着々と5月の引き渡しに向けて工事は進行しています。

完成までの会計予定 本年5月には本堂の引き渡しになりますが、それまでに本堂改修工事の

工事金額 1 億 9 0 万円のうち、昨年 1 2 月に 2 5 0 0 万円支払い、本年 2 月に 2 5 0 0 万円、5 月竣工時に 3 3 9 0 万円の支払いをおこないます。現在も少しずつ寄付金が入金されていますが、2 月と 5 月の支払い分に関しましては銀行からの借入れを起こし、支払いを完了させます。皆様のご協力心よりお願い申し上げます。

第 2 回現場見学会 昨年 1 2 月 7 日に第 2 回の現場見学会を行いました。1 2 月 3 日の市民タイムス 1 面の記事を見て檀家様以外にも見学したいと申し出があり 2 0 人程の見学会となりました。深志神社の牟礼宮司様も参加され、明治 9 年 4 月の深志神社を含めた地図をお持ちいただき、当時の歴史を示してくださいました。その地図では全久院の場所は「旧瑞松寺 当時 筑摩県 師範学校」と記載されていました。今年は、天井や壁の改修を進めますので、現在作業している床板張りが完成しますと足場を組みます。古くなった天井板を外しますので、本堂の屋根直下の木組みを見ることが出来ます。屋根裏には縦横無尽に張組がされています。それを見ることが出来る**第 3 回を 2 月上旬に予定**しています。日が決まりましたら皆様にお知らせしますので是非ご参加ください。



工事中の寺の使用変更
法事や葬儀は広間を仮本堂として行っております。
お勝手が新しくなりましたので、飲食も以前同様にすることが出来ます。
しかし広間とは言え本堂ほどの広さはありません。皆様の了解を得ながら会場としての使用を考えてゆきます。本年 5 月までのあと 5 か月間、皆様には大変ご不便をおかけしますが、なにとぞご協力のほど宜しくお願いいたします。



後藤先生レポート

・・・ 明治の火災後の復興 ・・・ （後藤先生ご自身の作です）

本堂の改修工事も進み、市民タイムスに紹介されたり現場の見学説明会も開催されたりしました。今回のレポートは、この本堂が新築されたときのことで

のことです。

明治 29 年 3 月 14 日未明の火災で旧本堂ほか焼失したことは『全久院報』第 49 号（令和 7 年 1 月発行）で触れました。その後建物の復興が始まるわけですが、その様子をたどってみます。

3 月 16 日、小平久平氏以下 44 人が集まり復興についての話し合いが行われました。その席で住職

から、明治15年内務省令で寺院が焼失して3年以内に再建されない場合は寺院の資格を失い廃寺となるとされているので、「是非共奮ツテ再建の計画アラン」と提案がされ、満場一致で再建が可決されました。そして本堂は総て以前通りの再建とすること、開山堂は本堂と同時に建立すること、本堂の建築見積り設計書などは世話人において28日までに提出するので2回目の会合を同日に持つことを決定して、この日の会合を終えました。

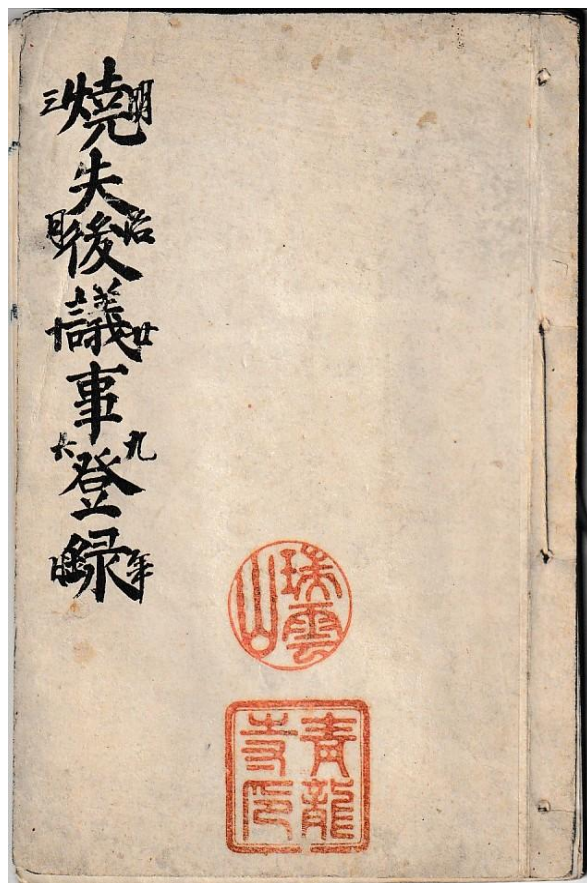
28日、大池源重氏以下47人が参集し、山口権造氏と坂巻儀平氏から提出された見積書や図面を審議し、この事業を行うための惣代・会計員・建築員設置を満場異議なく可決しました。さらに檀家の地区を12に分ち28人の受持員も置くことにしました。建築費予算として住職から1万2千円との提案がありましたが、紛糾し8千円に減額決定となりました。建築に掛ける期間は2年としこの間に経費も徴収することとなりました。本堂の再建設計と見積書一式は本町の矢澤寅三郎氏から提出がありました。火災から2週間もたたないうちに再建の骨子が固まっていた、住職はじめ檀家の人々の復興に掛ける強い思いが伝わってきます。

4月7日、郷津勘三郎氏以下24名の総代や建築委員が集まって会議を開き、会計員の選任や総代の改選が行われ、先に檀家が投票していた結果が紹介されて、新しい総代として縣治良衛・小平久平・高橋勇三・丸山弥三郎・松尾五兵衛の5氏が選出されました。このとき火災で位牌が焼失してしまっているの、新しい位牌をまつのは寄附金の金額の多寡で格式を決めることも決定しています。

同9日、再び総代と建築委員20人が集まり、寄附金を500円から5円まで20等級に分け、毎月末に納め2年間で皆納にすることを議決し、惣代初め委員の事務権限を決めました。12日には12人が集まって寄附金の徴収方法の細部を決めています。

年が変わって明治30年3月1日、これより先松川村の廃寺となっていた観松院を解体した材木が届いたのをうけて、20名の出席で建築着手の委員会が開かれ、材木の無事到着に感謝し、これから始まる工事の打ち合わせを行いました。地固めに木遣り歌を歌う人を含めて人足36人、石口(棧力)人足8人、14間半×7間の建前人足45人で行うことを決めています。続いて8日には上棟式を本堂と同時に行うことにし、当日檀信徒が来る場合は祝賀金として20銭を持参し、折詰を肴に一盃を出すことを決めています。

こうして3月19日、焼失から1年後上棟式を挙行することとなりました。事が迅速に進んでいます。これは当時の総代はじめ関係者の寺を再建したいという熱意の賜物以外なものでもありません。



全久院の集い

坐禅会 ・ ・ 第七十一則「翠巖眉毛（すいがんびもう）」 ・ ・

中国の900年頃、禅宗の一時代を気付いた高名な雪峯和尚の門下に翠巖・保福・長慶・雲門という歴史に残る僧が排出された。其の中の翠巖が「看よ翠巖が眉毛ありや」と保福に聞いたという内容です。禅宗には不立文字（ふりゅうもんじ）という教えがあり、その教えを以って「あまり言葉にして説くと罰が当たって眉毛が落ちる、説けば説くほど益々真理から遠ざかってしまう。むしろ座禅をして黙っている処に真理は現れる。私は説きすぎて眉毛が落ちてしまっていないかね」との問いです。

当寺中国では紙に銭を書いて、それを焼くことで鬼神の祟りを祓うことが出来るとされていた。人に頼まれお祓いをしているうちに銭と書く紙を全部使い果たしてしまった。自分の為ということも忘れ、人の便宜を図って自分が不自由することさえ忘れていたという故事があった。自分さえよければと云うような功利主義的、利己主義的な人は仏法の心理から遠ざかってしまう。「ただ儲ける事ばかり考えていたら、終には国は潰れてしまう。真の仏法は無くなってしまう」

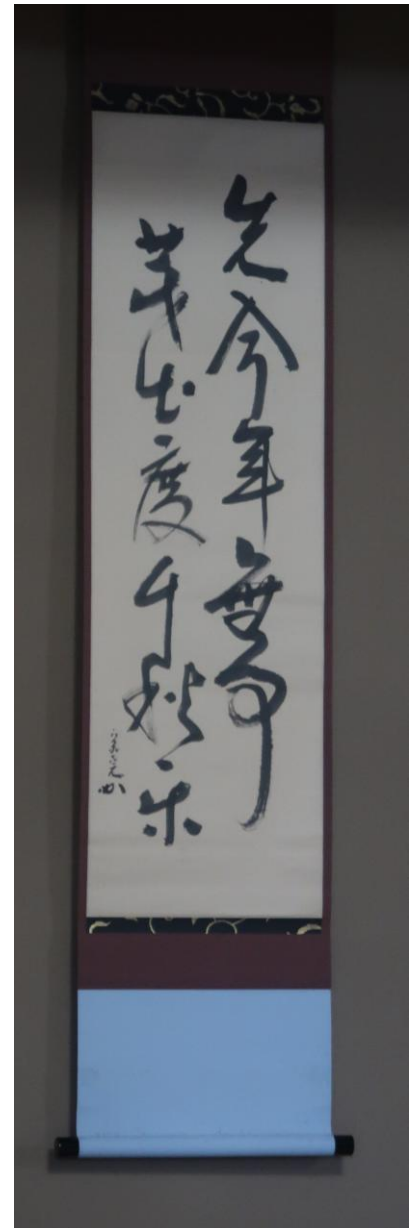
このように説いたことに「眉毛ありや」と兄弟弟子に聞いた。説いている自分が益々説こうとしていることから遠ざかってはいないかを聞いているのだ。私たちは生きている間常に相手に自分を押し付けていることに気付いていない。それに対する痛烈な反省を、自分に問いかけている。良かれと思い、教えようと思い説くが、いつの間にか押し付けになる。功利主義や利己主義になっては仏法から遠ざかるというのは真理です。しかし、それを説くことで押し付けが始まるとしたらそれ自体が功利主義や利己主義です。常にこの反省を繰り返さないといけないという教えになると思います。禅では「合點（がてん）させる」という考えがあります。言葉なしに直に伝わることです。現代は言葉にして知らしめる、説明責任が万能の時代です。そうではない世界があることも知って欲しいと思っています。「眉毛ありや？」

茶道部 納会

全久院茶道部は会の名前を即心会と言います。先代の父が名付けたもので、即心即仏から名づけられました。この身そのままに仏であるという禅の教えです。「稽古して、稽古して、稽古して、稽古して、頭で考えなくても体が自由自在に動き点前ができる」という思いを会の名前にしたものと思われま

す。稽古は月・土曜日が昼間13時頃から16時頃まで、水・金曜日が夜18時頃から21時ころまで、週に4回行っています。12月の第3週が一年の稽古修めになります。この行事が「納会」となります。右上の写真は、床の間に掛けられた堀内兼中斎宗匠の書です。「先今年無事 芽出度千秋楽（まず こんねん ぶじ めでたく せんしゅうらく）」の掛け軸を飾り、炭・食事・濃茶・薄茶の順で本年最後の稽古をし、一年の頑張りの慰労をします。

現代は稽古離れの風潮が吹き荒れ、身に着くまでの繰り返しの稽古はこの世から消え去りつつあります。しかし、この繰り返しの極致は座禅です。何もしないで、考えることもせずただ坐ることを繰り返し続ける。この意味が現代には活きない、無駄はしない、利益にならないことはしない、「眉毛あり



や?」。現在40人弱の方々が稽古に通ってきてくださいます。この方々のお蔭で、私も稽古をさせてもらえます。納会のための道具の準備、点前の確認などでアタフタしながら、ゆったりとした時間を過ごさせていただいています。

大黒コーナ

オペラを楽しむ会 第13回公演 オペラ 『ルイザ・ミラー』

この演目はヴェルディ作曲『ルイザ・ミラー』。原作はシラーの戯曲『たくらみと恋』。物語は、退役軍人の娘ルイザと、正体を隠した領主の息子ロドルフォの悲恋を軸に、権謀術数が絡む悲劇を描いており、登場人物の心理を情熱的な音楽で表現している。ヴェルディ中期の傑作とされているオペラです。ヴェルディにとって15作目のオペラにあたり、それまでの英雄的な歴史劇とは異なり、一般市民を主人公とした心理描写に焦点を当てた点が特徴的。この作品は、後に続く『リゴレット』、『トロヴァトーレ』、『椿姫』といった傑作群（三大人気オペラ）への過渡期を告げる重要な作品と位置付けられています。

あらすじ 舞台は17世紀前半のチロル地方。オーストリアとイタリアにまたがるアルプス山脈東側の地方で、ドイツ系住民が多く住む地域。美しい自然が広がる村にある、退役軍人ミラーの家の前で、今日はミラーの娘ルイザの誕生日。身分を隠した領主の息子ロドルフォと恋中に。彼はまだ来ないのでルイザはそわそわしている。一方、ロドルフォの父である伯爵は、息子を侯爵未亡人のフェデリカと結婚させようと策略。また、伯爵の家臣ヴルムは、ルイザに片思いをしており、父ミラーの命を救う代わりに、ロドルフォへの愛は偽りだったと書いた手紙を書かせる。その手紙を読んだロドルフォはルイザを誤解し、毒入りのワインを飲ませてしまう。死を目前にして、ルイザはロドルフォに真実を告白する。すべてを知ったロドルフォは、ヴルムへの復讐を叫びながら、ルイザとともに息絶える。

親子の愛、貴族と平民の階級差がもたらす愛の悲劇、裏切りなどを描いた、劇的で抒情的な楽曲が魅力の作品です。

聴きどころ ルイーザのお誕生日に、お祝いに来てくれた友達が“ルイーザ、起きて、皆の心の女王様…太陽の微笑みがもう山々に映えていますよ…”と可愛らしく美しい詩とメロディが続きます。静かで美しく、宗教音楽にも聴こえるところが聴きどころです。

練習始まる 今までのメンバーに新しいメンバーも加わり、賑やかに練習が始まりました。発声、イタリア語の読み、リズム読み、音取りなど、声をひとつに楽しく稽古が進みます。みんな

一緒に歌って練習していけば、難しいところも出てきますが、繰り返しながらそれを解決していき、達成感を味わい、楽しく切磋琢磨できます。



本番では、歌手、オーケストラ、舞台を支えてくださってる方、みんなのパワーが一つになり、それを感じ取って下さるお客様がいて、盛り上がっていくことと思います。興味のある方、イタ

リア語、ベルカント唱法…初心者もプロっぽい方も大歓迎です。どうぞ一緒に練習して、オペラの世界を楽しんでみませんか？

是非お越しください 現在市民芸術館は改装工事を行っています。完成予定がまだ知らされていません。令和9年春には完成と漏れ聞いています。完成と共に公演の期日を皆様にお知らせします。松本発信のプロもアマも一緒に創り上げる舞台です。皆様に楽しんでいただける舞台を作れるように、メンバー一丸となって、頑張っていますので是非ご来場ください。

掲示板 (皆様のご参加お待ちしております)

下記の予定は変更される場合もありますので、参加の際は日時を寺に確認の上お越しください

・・・ 檀信徒護持会新年総会 ・・・

1月17日(土) 4時より全久院で開催します。4時より護持会総会となり、皆さまから頂戴している護持会費の会計報告、全久院令和の大改修の経過報告を致します。本堂の改修工事は令和8年5月の完成を目指し工事が進んでいます。その進捗状況を報告いたします。4時40分より仮本堂にてお参り、終わって皆さまにお弁当をお配りし、以前のように全久院伝統の「手作り けんちん汁」をお出しして皆様と会食をしたいと存じます。会費は3000円です。参加希望の方は1月10日(土)までに電話でご連絡ください。



・・・ 観音講 ・・・



毎月17日10時から12時半まで行います。10時から観音様へのお勤め、10時45分からご詠歌、11時半から大黒の指導で親しみやすい曲の合唱、12時より茶話会という日程です。現在15人ほどの参加者があります。気寄りが良く60代から80代の方が元気に集まって来ます。住職の役職の都合で日程の変更がありますので電話などで日程の確認をお願いします。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

・・・ 座禅会 ・・・

2月21日(土)・3月21日(土)・4月18日(土)・5月16日(土)・6月20日(土)
7月18日(土)・9月19日(土)以上が上半期の日程です。基本的には第3土曜日夕方4時

集合、4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。座禅を経験していただきながら、混迷する現代、自分を見失ってしまいそうな日々を、もう一度自分の時間を取り戻して、ものの見方や生き方をゆっくり考えてみるのが是非必要と思います。最近では現実の生き方に、どのように禅の考え方が活かされるのか、参加者の積極的な考えが飛び交います。参加費は1000円です。ぜひお越しください。

・ ・ ・ ご詠歌の会 ・ ・ ・

2月25日(水)・3月11日(水)・4月22日(水)14時30分・5月20日(水)・6月10日(水)・7月8日(水)・9月9日(水) 第2水曜日、午前10時半より12時まで、白板東昌寺住職 飯島恵道師にご指導いただきます。4月は松本仏教和合会の托鉢が午前中にあるため午後の開催になります。ご詠歌の検定を受けたり、ご詠歌の全国大会や県大会、全久院のお盆法要、新年会、和合会の花祭りなどに参加したりお楽しみもいろいろあります。上記の日に突然来ていただいても結構です。一緒にいかがですか。なお参加費用1回2000円をお願いいたします。

・ ・ ・ 歌の会「花かんざし」 ・ ・ ・

1月14日(水)・2月4日(水)・2月18日(水)・3月4日(水)・3月18日(水)・4月1日(水)・4月15日(水)・5月13日(水)・5月27日(水)・6月3日(水)・6月24日(水)・7月1日(水)・7月15日(水)・7月29日(水)・8月19日(水) 第1・第3水曜日に開催します。大黒の指導で、童謡・唱歌・流行歌・名曲を練習します。期日は基本的には毎月の第1、第3水曜日です。発声練習の成果で高い声が出せるようになったと好評です。**時間は10時から12時**。会費は1回1000円、途中10分ほどのティータイムがあります。ご希望の方は全久院まで連絡ください。上記の日程には変更する場合がありますので、お越しの際にはあらかじめ電話等で確認ください。

・ ・ ・ ホームページもご覧ください ・ ・ ・

<https://zenkyuin.or.jp/>

・ ・ ・ 全久院 インスタグラム ・ ・ ・

zenkyuin

令和の大改修もいよいよ本堂の工事に入ります。工事の経過など写真も含めて皆様に最新情報をお届けしたいとの趣旨でインスタグラムを始めます。その他の全久院の行事等の情報もアップしますので是非ご覧ください。わたしもスマホやパソコンの使い方が不得手で、なかなか馴染めませんが、インスタグラムのアプリをダウンロードして、インスタグラムを開き、検索マークをクリックし、zenkyuin を入力してください。あるいは右のQRコードを読み込んで全久院のインスタをお開きください。宜しくお願いします。



@ZENKYUIN